

城端線・氷見線沿線地域公共交通計画の策定について

1. 計画策定の背景と主旨

南北に走るＪＲ城端線・氷見線と、東西に走るあいの風とやま鉄道の他、沿線地域内外を繋ぐバス路線や万葉線など、多様な公共交通機関により結ばれ、通期・通学を中心に、沿線住民の日常の生活の足として利用されている。

一方で、少子高齢化や人口減少が進展し、公共交通機関の利用者の減少や交通サービスの運営・維持に係る負担など厳しさがさらに増すことが予想されたことから、それらに対応していくため、平成 29 年 3 月に「城端線・氷見線沿線地域公共交通網形成計画」を策定した。この計画に基づき、城端線・氷見線の利用実態を踏まえ、沿線住民の日常生活はもとより、新幹線開業による効果を圏域内に波及させ、活力ある経済社会の維持・発展させていくため地域公共交通の利用促進策を実施してきたところである。それらの利用促進策等により、城端線・氷見線の沿線の人口は減っているものの、1 日あたりの利用者数については、これまで維持させてきたところである。

しかし、新型コロナウイルスの影響により令和 2 年度においては利用者数が大きく減少しており、今後コロナウイルス収束後においても「新しい生活様式」を踏まえたライフスタイルの変化が予見される中、沿線地域の実情に沿った持続可能な公共交通網をどのように構築していくかが重要となってくる。また、現在、富山県・沿線 4 市・ＪＲ西において、安全で持続可能な公共交通の実現を通じ、城端線・氷見線を維持していくため、鉄道施設・設備の整備や維持運営の費用に係る課題をはじめ、沿線市の将来的なまちづくりの整合、利用者の利便性向上、観光振興による活性化など様々な観点から、実現方法及びその可能性を含めて議論されているところである。

これらを踏まえ、現行計画策定時から公共交通をとりまく環境は大きく変わっており、それらに対応するため、各市の計画等と整合をはかりつつ、沿線地域内 4 市の持続可能な公共交通を構築していくため公共交通計画を策定するものである。

2. 公共交通計画の計画期間

5 年間（令和 4 年 4 月～令和 9 年 3 月）

3. 今後のスケジュール

令和 3 年度

7 月下旬

- ・沿線住民を対象に、利用状況等についてアンケート調査を実施

8 月～12 月（関係課、交通事業者等と協議。研究部会を活用）

- ・アンケート分析、課題整理

- ・施策の検討、取りまとめ

- ・計画 素案作成

1 月 臨時総会（素案の審議）

2 月 パブコメ

3 月 臨時総会（計画案の審議）

計画の策定